集でも極めて少ない部分を占めるに過ぎない。海岸は砂浜であるためにトウゴウヤブカの発生は極めて少ない。アカイエカは6月から多くなつて7月下旬に急峻なピークを作り8月下旬に向つて急減する。吸血活動は日没と同時に始まり8時頃から次第に活潑になつて早朝5時頃迄続くが特に11時～4時迄の間が最も活潑である。即ち本種の当部落での吸血活動はミクロフィラリアの末梢血への出現時刻とよく平行している。以上のことから当地方でフィラリア伝搬上最も重要な種類はアカイエカであつてその他の種類は本寄生虫に対する感受性の低いことと人家へ来襲する個体数の少ない事とで問題にならない。

次に患家及び二重蚊帳内へ夜間侵入してくる蚊群集と早朝患家内で逗留している蚊群集の組成を比較するとアカイエカでは逗留している割合が有意的に高くシナハマダラカ、オオクロヤブカ等では稍々低い。このことはアカイエカが患家或はその附近に潜伏して産卵後再び同一或は近接家屋を襲う可能性の大であることと思わしめる。(陸上自衛隊・針尾病院)

実験的塵芥処理場に於て蠅集又は発生した蠅の様相

三谷和合 渡辺 清 加藤彰郎

Mitani, W., Watanabe, K. & Kato, S.:
House-flies collected in the experimental
sanitary disposal of garbage

既報(第7回日本衛生動物学会, 第10回西日本支部大会)の如く我々は京都府, 京都市, 京大, 西京大との協力のもとに都市塵芥堆肥利用に関する衛生学的研究を1954年9月より行つて来た。その中この塵芥処理場に蠅集又は発生する蠅についてここに報告する。

1. 期間: 自1954年9月, 至1955年12月。2. 採集方法: ①蠅集一魚を誘引物とする金網製トラップによつて採集。②発生一塵芥堆積槽表面及び側面より幼虫, 蛹を採集し, 実験室内に於て羽化せしめて判定。3. 成績: ①蠅集一塵芥堆積槽に蠅集した蠅は16種であり, イエバエが最も多く62.0%を占め, 次でケブカクロバエ(10.0%), ヒロズキンバエ(8.9%), ヒツジキンバエ(4.3%), ヒメクロバエ(3.4%)が比較的多く蠅集し, 他は僅かであつた。②発生一塵芥堆積槽より発生した蠅は14種であり, イエバエが最も多く, 67.0%を占め, 次でヒツジキンバエ(13.7%)ヒロズキンバエ(10.9%)センチクバエ(3.6%)が比較的多く発生し, 他は僅かであつた。4. 考察及び結論。以上の成績よりかゝる塵芥堆積場に於て蠅集又は発生する蠅の60%以上はイエバ

エであるが, 其の他ケブカクロバエ, ヒロズキンバエ, ヒツジキンバエ, センチクバエ等も比較的多い。特にヒロズキンバエ, ヒツジキンバエ等 *Phaenicia* 属のものが *Lucilia* 属のものよりも圧倒的に多く塵芥堆積場に於て蠅集又は発生する事実は, *Phaenicia* 属のものが *Lucilia* 属のものよりも頻繁に人家内に侵入する事と何等かの関連性があるものと推察される。(京府医大・医動物)

実験的塵芥処理場に発生する蠅の防除対策に関する研究

渡辺 清 三谷和合 加藤彰郎

Watanabe, K., Mitani, W. & Kato, S.:
Studies on the destruction of fly
breeding in garbage

我々は都市塵芥堆肥利用に関する衛生学的研究を1954年9月より今日迄行い, 既に塵芥処理場に蠅集又は発生する蠅について一部報告したが, 今回は更に此等発生する蠅の防除対策につきつぎの成績を報告する。

1. 期間: 自1955年5月, 至1956年1月。2. 実験地: 京都市西京大学校内。3. 実験方法: 既報の如くはじめは京都市十条に於て約1間立方の堆積槽2個で実験したのであるが, 西京大学に於ては同様の堆積槽5個を作りその1個には屋根を作らずに実験を行つた。蠅発生の防除対策として醗酵熱を一樣に行き渡らせる為その表面を①ビニールで覆つたもの②土で覆つたもの及び対照として③表面露出のもの④表面露出し屋根の無いものゝ4つの方法に分け実験を行つた。4. 成績: ①ビニールで覆つたものでは暖季には堆積後約5日で全く幼虫の発生を見なくなつたが, 表面露出のもの, 屋根の無いもの, 共に長期間幼虫が採集され, 又弱齢幼虫も発見された。土で覆つたものでは蛹が長期間見出された。②冬季に於ては4法共に稍々長期間ほど同数の幼虫, 蛹の発生が見られた。5. 考察並びに結語: 以上の如く暖季に於ては塵芥の醗酵熱を一樣に行き渡らせる為堆積槽表面をビニールで覆う事により大体に於て蠅の発生を防除し得るらしい。表面を土で覆つた時には長期間に亘り蛹が採集され土が適当な蛹化地となる如く推察される。冬季に於ては外気温が低い為ビニール被覆槽も温度が低く為多数の幼虫・蛹が見られた。これに対し保温の為ビニール表面にモミガラを置き, 蠅の発生防除法を目下研究中である。(京府医大・医動物)